那覇市
タウンカラースタンダード

コーラルホワイトを基盤にした
亜熱帯庭園都市の色をつくる

タウンカラースタンダードとは

那覇市では美しい景観づくりのためにさまざまなとりくみを行っています。「タウンカラースタンダード」もそのひとつで、色彩の面から美しいまちづくりをすすめようとするものです。

もとより、まちはさまざまなものや目的を異にする人々が集まってできているのですから、色をひとつに決めてしまおうというものではありません。あまりに騒々しい色づかいをどうするのか、またみんなが快適に暮らせる色づかいや那覇らしい色づかいとはどんなものか、ということを考え、市民の間で共有しようとするのがタウンカラースタンダードです。

色のデザインには幅広い可能性があります。ここに述べているのはそのほんの一部、街の一員としてのマナーにすぎませんが、これをきっかけに市民・事業者の方々が色彩について関心を深め、カラーデザインを通して美しいまちづくりを実現されることを願います。

1 那覇の色彩形成テーマ

亜熱帯島嶼地域の自然環境、特色ゆたかな文化風土を生かした色づかいによって、美しく個性ある景観形成をめざします。色彩形成のテーマは、「亜熱帯庭園都市の彩りをきわだたせるコーラルホワイトのまちづくり」とします。

●都市全体の**統一感**をつくる――コーラルホワイトを基調とします

都市の全体景の色はコーラルホワイトを基調とします。亜熱帯の強い光と影のコントラスト、そして空・海・花・緑などの自然の彩りの鮮やかさを生かすためです。

これをまちの共通要素とするために、個々の建築物がこの色を一部に使うようにします。ただし、コーラルホワイトは1色ではなく、遠目や強い光のもとで白く見える程度の淡い色も含むので、ある程度選択の幅があります。今ある建物の色も、たいていこの範囲に入っています。

コーラルホワイトとは、琉球石灰岩のソフトな白をイメージしてつくったことばです（慣用色名ではありません）。

琉球石灰岩は那覇の成立基盤であり、景観の骨組みをつくってきた素材でもあることから、歴史風土に調和し、誰もがなじみの深いものです。ですからその色彩は基調としてふさわしいといえます。また、現在の那覇市の色彩も白っぽい色を主としていることから、今後の景観形成にも無理がありません。そしてなにより、亜熱帯独特の自然の豊かな彩りをいっそう鮮やかに見せる背景として、最もふさわしい色であるといえます。

琉球石灰岩切肌

コンクリート打放し

琉球石灰岩割肌石畳

砕石コーラル

コーラルホワイトのまちを構成する代表的な素材

●**変化**をつくる――那覇「らしさ」を感じさせる色を活用し、変化をつくります

風景の中で「那覇らしさ」を強く意識させる最も重要な色のひとつは、素焼きの赤瓦屋根の色です。したがって、赤瓦の素材色はこれからも大切に継承していきたい色として活用します。

また、強い日差しがつくる色彩環境の中では、他地域に比べて明るいカラフルな色群、濁りみの少ないはっきりした色（明清色）が好まれてきました。これらには南国的なおおらかなイメージもあり、那覇・沖縄に特徴的な色づかいといえます。

そのほか、沖縄・那覇らしい色には、首里城の赤や紅型などの鮮やかな色があります。ただしこれらは日常的な街並みに大々的に使われる色ではなく、特別な場所や時間、規模を限って使うことがふさわしいアクセント色です。

2 誘導の対象

●対象物件

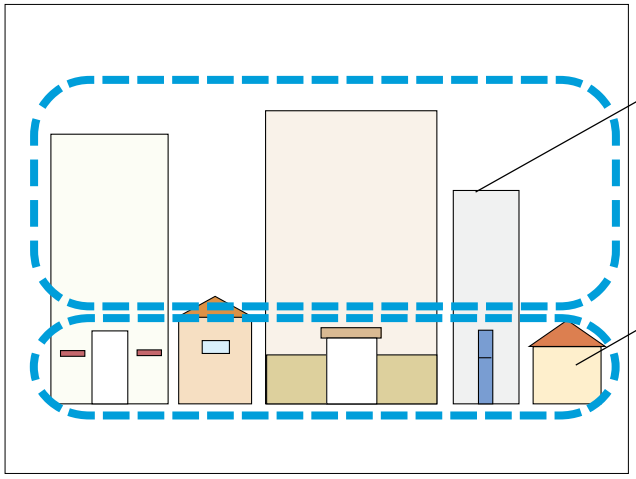
「タウンカラースタンダード」が対象とするのは、那覇市全域のすべての建造物です。

主に建築物の外壁の色を念頭においた表現となっていますが、土木施設などにもここで述べる考え方を適用し、状況に応じて適切な色彩計画を行うものとします。

また１軒１軒の建築物それぞれに多くの色が使われますが、ここで主に誘導の対象とするのは、＜最も広い面積に使う色（基調色）＞＜屋根の色＞＜特に派手な色＞です。これらをきちんと守れば、都市景観を乱す色の濫用を最低限防ぎ、よりよい色彩環境をつくるための基盤が形成できると考えます。

その他の色については、お勧めの配色の考え方を述べていますので参考にしてください。

なお、色彩計画単独での届出義務はありません。法令・条例等により届出義務のある建築物・屋外広告物等については、色彩計画も同時に提出し、チェックを受けてください。



中高層部（およそ３階以上の上階）
都市の大景観を構成する要素となる。エリア区分にかかわらず、**基調色によって統一感をつくる**部分。

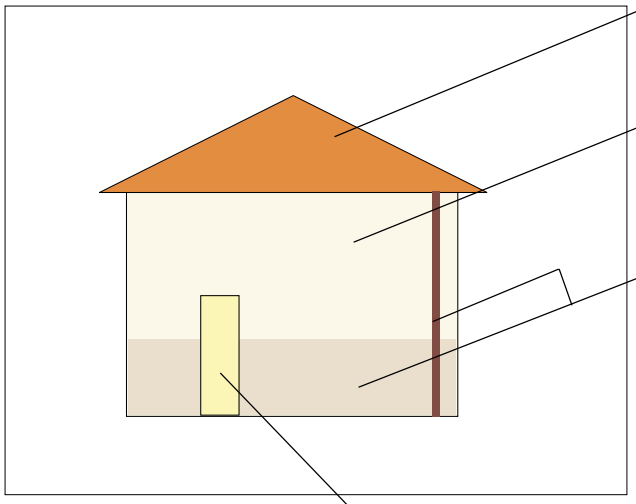
都市景の基盤をつくる中高層部の色彩

低層部（１～２階部分）
基調色と共に、**補助色や強調色を活用して変化をつくる**部位。エリアの性格に応じて使う色の範囲が変わる。

多彩な色は低層部で効果を発揮する

●対象となる建築部位や面積

建築物の色の構成を、部位や面積により、図のように分けて考えます。



屋根色
屋根の色です。那覇は赤瓦の屋根の色が都市の大切なアイデンティティとなっています。

基調色
最も大きな面積を占める色を基調色と呼びます。
個々の建物の色というだけでなく、まち全体の色としても大切な存在です。

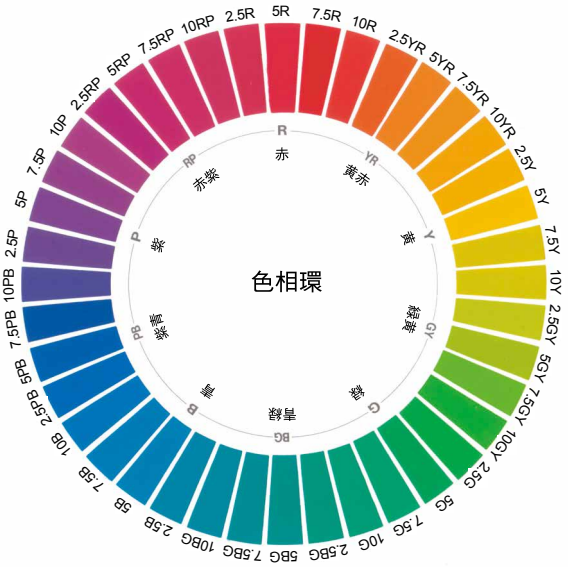
補助色
基調色より小面積で、基調色に添える色を補助色と呼びます。
建物全体の外観にリズムや変化をつくり、表情を与える存在です。主に低層部や小面積の付属物などに使います。

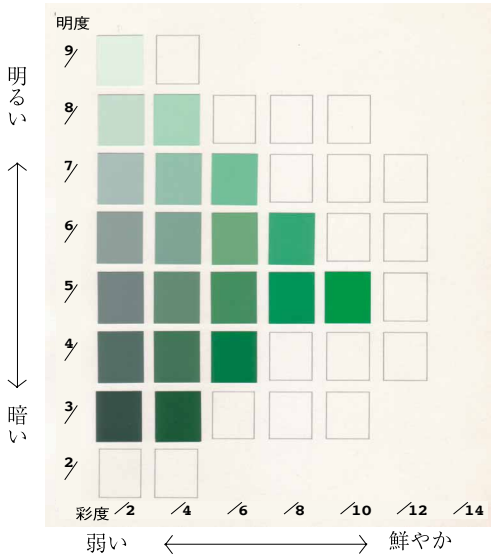
強調色・誘目色
背景の色と大きな差があり、目につきやすい色が強調色です。
小部分に効果的に用い、全体の配色を引き締める役割をもっています。
強調色の中でも、赤や黄、原色などの誘目性の高い派手な色を、特に誘目色と呼びます。

※具体的な色の範囲については、５章を参照してください。

3 色の呼称とシステム

色は、「色相」「明度」「彩度」の三つの属性に分けることができます。
これを数字やアルファベットの記号で表示するのがマンセルシステムです。
（例：　は、色相が5G、明度が7、彩度が6なので、5G7/6 と表します。）



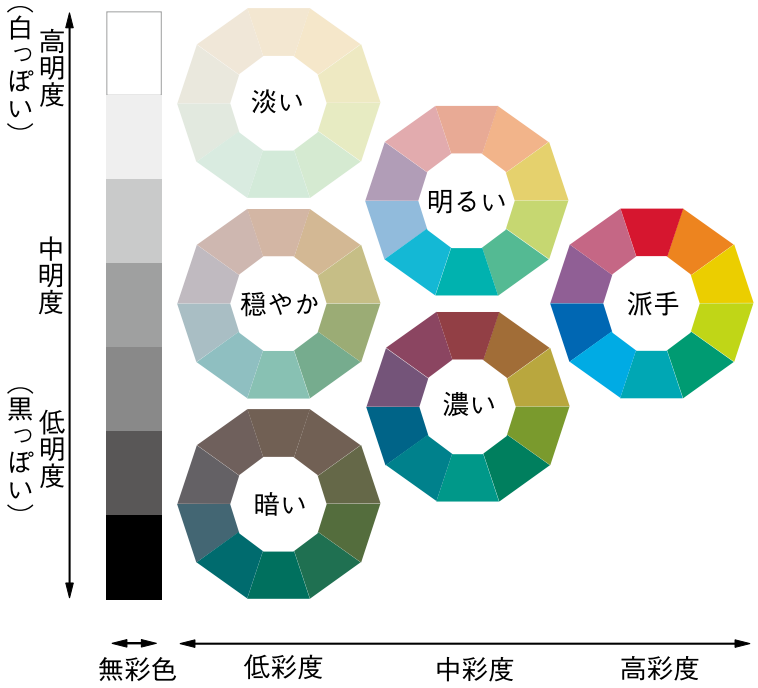


●色相
赤、青、黄などの色味を指す。10の色名に分け、それぞれ頭文字で表す（例、GY＝グリーンイエロー＝黄緑）。さらにそれぞれの色を数字で10段階に分割し、数字と頭文字を組み合わせて表示する。

●明度
明るさ。1～10の段階で表示し、数字が大きいほど明るくなる（白に近づく）。

●彩度
あざやかさ。数字が大きいほどあざやかで、色味が強い。白、灰色、黒（無彩色）には色味がないので、彩度もない。

そのほか、色の調子（トーン）による分類の方法もあります。那覇市タウンカラースタンダードでは、マンセルとトーンの両方を用いて色を表しています。



※那覇市タウンカラースタンダードでは、トーンを6つのグループに分けて表現します。それぞれのグループは共通するイメージをもっています。指針では、このグループ名と色相記号を用いて推奨色や避けた方がいい色、おすすめの配色方法を示します。

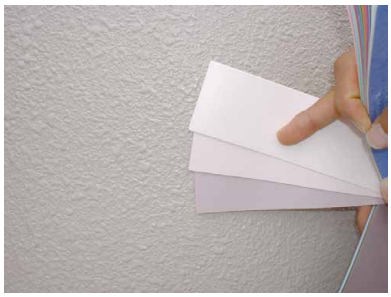
●トーン（色調）
明度と彩度をあわせ、同じ調子のものをグループ化したもの。
明度が高く彩度の低いグループは「淡い」と呼ぶなど、言葉で表現する。厳密に色を区別するには向かないが、感覚的にとらえやすい。

4 色彩計画ガイド

●手順よく色を考えていきましょう

(1) まず、周辺のまちなみや環境をよく観察します。

個人の建物でも、外観は公共的な存在です。周囲の景観を損なう色、独りよがりな色にならないよう、周辺を観察します。対象となる建物は、まちの中でどんな立場でしょうか。建物は通常まちの「背景」となるものですから、背景としてまちに馴染む色が基本です。



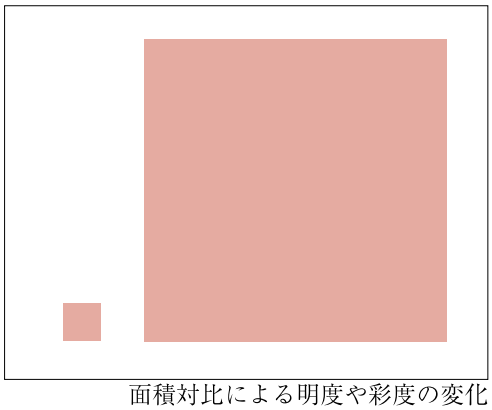
色票による色の調査

(2) 基調となる色を決めます。

最も大きな面積に使う、基調となる色（基調色）を決めます。これはまちなみをつくる色でもあるので、なじみやすい落ち着いた色が基本となります。エリア別カラースタンダードに示されている範囲から選びます。

面積が大きくなると、小さな見本で見たときよりも色が強く（鮮やかな色はより鮮やかに、暗い色はより暗く）感じられるので、見本で適当と思った色よりもすこし薄めの色にしておくといいでしょう。

また、赤瓦色（那覇のキーカラー）を使用する場合は、基調色とキーカラーの相性もチェックします。



面積対比による明度や彩度の変化

(3) 合わせる色を選びます。

基調色に、補助色、強調色をとりあわせます。エリア別カラースタンダードを参考に、建物の目的に応じてふさわしい調子の色を選んでください。

これらは変化や個性をつくるものなので、視線の行きやすい建物下部で主に用いるようにします。数色使う場合は、互いに調和のとれた配色となるよう、次項を参照してまとめます。一般に色数はあまり多くしないほうがすっきりします。

建物は多くのパーツからなりますが、パーツごとに色を選んでいくと全体のカラーバランスが悪くなりがちです。全体のイメージを決めてから色の組み合わせを計画しましょう。

欲しいイメージから配色を考える

(4) 材料との相性を確認します。

塗料や着色された素材の種類や仕上げによって、色の見え方が異なるので注意します。

また褪色しやすいもの、汚れやすいものもあります。そうしたものは塗り替えメンテナンスの容易な位置に用いるなどの工夫をします。

丈夫で手入れしやすい材料や年月によって味わいの増す材料を選ぶことも良いでしょう。ただしどんな材料でもメンテナンスは必要です。何色であろうが、手入れされず老朽化した様はふつう見苦しいものです。

汚れに対してはメンテナンスが欠かせない。塗装による色は、特に老朽化が目立ってしまうので注意したい

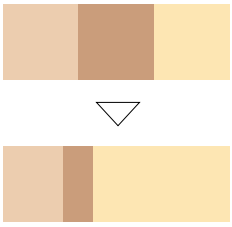
●素材の色を活用しましょう

・木、土、石、素焼きの焼物などの、自然素材そのものの色はできるだけ生かします。とくに琉球石灰岩や素焼赤瓦は、那覇の基調色とキーカラーとして重要です。
・但し自然素材であっても、沖縄の自然素材と著しく色調が異なるもの（黒御影石など）については、大面積部分ではなく小面積に用います。できる限り沖縄の環境になじむ色合いのものを選ぶのが望ましいでしょう。
・コンクリート、金属、ガラスなどの、着色しない素材色はそのまま生かすものとします。
・金属、ガラス、タイルなどで反射率の著しく高いものは、色彩として違和感をもたらすことがあるので、大面積への使用は控えます。とくに熱反射ガラスについては、周囲に光害を及ぼす恐れや、周辺のものがごちゃごちゃと映り込んでかえって景観の煩雑さを増してしまう恐れがあります。ふさわしい立地、相当充分なセットバック、周辺への反射光の影響が少ないといった条件を満たした上でのみ使うようにします。

●配色のポイントを押さえましょう

□□□まとまり感をつくります

・色数を少なくし、メインとなる色とそれ以外の色の面積比を大きくするとまとまりやすいでしょう。
・色数が多い場合、色相または色調を揃えます。



メインの色と強調する色の
面積差をつける

色相を統一し、色調（トーン）を変化させた配色の例

色調（トーン）を統一し、色相を変化させた配色の例

□□□変化をつくります

・必ずしも色数の多さや極端さでつくるのではなく、リズムをつくる、彩度差・明度差をつける、効果的な位置（視線の行くところなど）に配するなどの方法を活用して、快い変化をつくります。
・色相と色調の一方に共通性をもたせ、もう一方を変化させます。

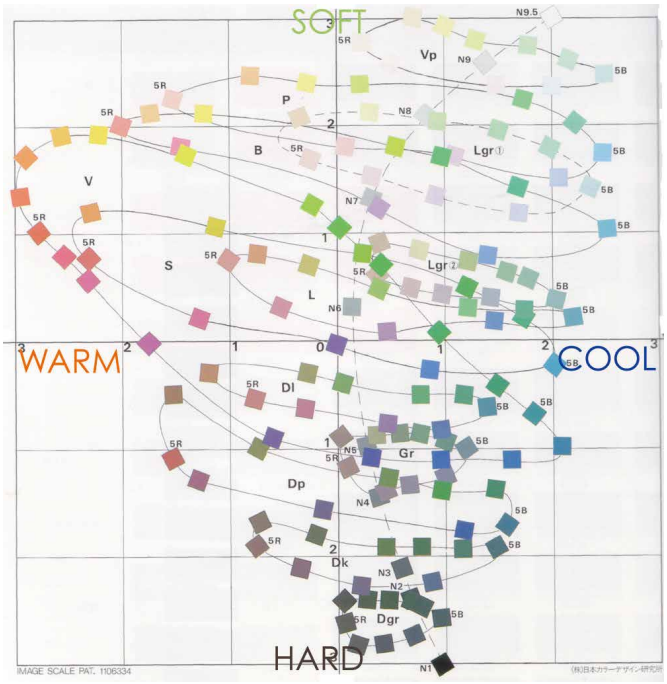
使っている色は無彩色だけだが、明度差とテクスチュアを活用し、変化をつくっている

色相を統一し、明度でコントラストをつけることで豊かな表現ができる

□□□沖縄の環境に合う色を主体にします

・沖縄の環境には明清色（濁りの少ない明るい色）が合いやすく、またこれらの色の組み合わせは亜熱帯らしいイメージを出しやすいといえます。こうした性質を効果的に使います。

・また沖縄の太陽光は赤みを帯びているため、温かみのある色やイエローベースの配色が似合いやすいといえます。



ブルーベースの配色

イエローベースの配色

赤にも青みがかった赤と黄みがかった赤があるように、どの色にも青みと黄みの２種類があるといえます。
青みがかった色（ブルーベース）どうし、または黄みがかった色（イエローベース）どうしで色を組み合わせると調和しやすいといわれます。

上＝明清色、下＝濁色
左＝暖色、右＝寒色
※（株）日本カラーデザイン研究所「カラーイメージスケール」より

□□□なじまない色は避けます

・蛍光色は、アクセントカラーであっても原則として使用を避けます。

・紫系の色は建築物になじみにくい色です。アクセントカラー以外、原則として使用を避けます。

・緑も意外に難しい色です。自然、ナチュラルといったカラーイメージがあるのですが、塗装色の緑は逆に人工的な雰囲気が強く出ます。基調色として用いるのは避け、使う場合は小面積で用いることが無難です。

□□□誘目色は適切に使用します

・目立たせるべきところと控えめにすべきところを区別します。

・それには、まちの中での役割を意識します。目立ってよいのは、交通標式やサイン、特別な建物などの限られたものです。建築物、土木構造物など、まちの“背景”となるものはひかえめにすべきです。

・面積の大きな面はとくに誘目色を控えます。また面積効果にも注意します。

・誘目色を使うときは、まちとして見たとき大きすぎないスケールとし、かつ一つの建物の中でも適当な割合に納めます。

・快適な色の組み合わせとします。
（誘目色ばかり何色も組み合わせるとうるさくなります。色数を控え、低彩度色と組み合わせることがすっきりし、まちなみにも調和します。）

□□□素材・形態に応じて色を使います

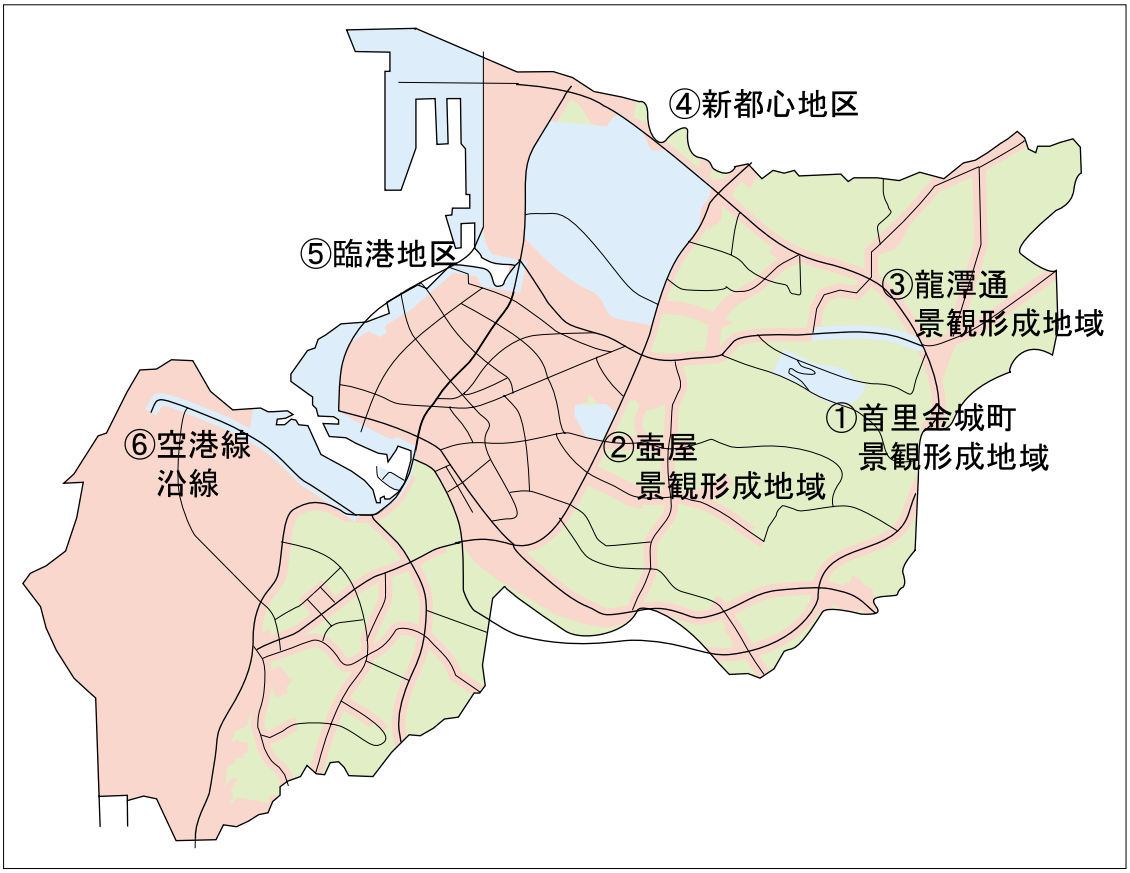
・形態や素材とかかわりなくただ色を塗り分けると、不自然になりがちなことに注意してください。部分のかたちや機能に応じて色を使いましょう。

平面を色だけで塗り分けると不自然になりがち。この建物はその後塗り替えられた

5 エリア別カラースタンダード

住宅地であまりカラフルな色が多用されると落ち着きのない環境になりかねませんが、商業地では賑わいも必要です。一方那覇市には都市景観形成地域などのように、景観づくりの方向性が特に定められているエリアもあります。こうした地区の性格に応じて、それぞれふさわしい色を考える必要があります。そこで図のようにエリア区分を行います。

- 那覇市全域
  - 一般地区
    - 住居系エリア：第一種低層住居専用地域、第二種低層住居専用地域、第一種中高層住居専用地域、第二種中高層住居専用地域又は風致地区
    - 商業系エリア：第一種住居地域、第二種住居地域、準住居地域、近隣商業地域、商業地域、準工業地域、工業地域（用途地域外もこれに準ずる）
  - 景観形成地域等：都市景観形成地域、新都心地区、臨港地区、空港線沿線
    （①～③）　（④）　（⑤）　（⑥）



一般
住宅系地域

住宅系地域は、那覇市の基盤的な色彩を形成する地域です。行き過ぎた色づかいの乱れを減らすとともに、最低限度の統一感をつくります。
落ち着いた生活環境を形成する住宅地にふさわしい色づかいが望まれます。おだやかな親しみやすい色づかいを基本とします。

スタンダードカラー

●全体の配色イメージ

落ち着き、おだやかさ、親しみを感じさせる配色とします。住宅系地域は赤瓦が比較的よく使われ、緑も多いエリアなので、その特色を生かすためにも建造物は赤瓦や緑をひきたてるおだやかな配色を基調とし、いたずらに派手な色は使わないようにしましょう。

●基調色

上層階は基調色とその類似色でまとめることを原則とします。（上層階とは、だいたい3階以上を指しますが、建物や前面道路のスケールに応じて考えます。）

基調色は、つぎの範囲から選びます。色の例は 13 頁を参照してください。

中高層建造物（4 階建て以上）	【基調色 2】	7.5R ～ 5Y ／明度 7.5 以上／彩度 2 以下（YR 系は彩度 3 以下）、N ／明度 7.5 以上
低層建造物（3 階建てまで）	【基調色 2】	7.5R ～ 5Y ／明度 7.5 以上／彩度 2 以下（YR 系は彩度 3 以下）、N ／明度 7.5 以上
	【基調色 5】	その他の色相／明度 8 以上／彩度 1 以下

●その他の色

補助色は、面的に使うときは主に低層部（1 ～ 2 階）で展開します。あまり極端な色の差をつくらない、「淡い」色調または基調色と近い色相の「穏やか」な色調をおすすめします。とくに赤瓦を乗せている場合は、同色相の R・YR 系の色がなじみやすいといえます。

強調色を使う際も、落ち着いた色の組み合わせでアクセントをつくることは充分に可能です。もし誘目色を使う場合は、まわりの環境を乱さないよう、充分注意してください。

配色例

白と淡いグレーによる、明るく軽快なモダンイメージの配色

YR 系の淡い色による、柔らかく暖かみのあるイメージの配色

YR 系の淡いトーンと穏やかなトーンを合わせた、シックで落ち着いた配色

無彩色に近いごく淡いトーンでまとめ、シック･モダンなイメージをつくる配色

形態と色づかいがマッチしてリズムをつくっている

植物の緑が映えるシンプルな配色

穏やかで飽きにくい配色

色を抑えたことで異素材の表情が引き立てられている

一般
商業系地域

街全体の最低限度の統一感をつくるために、基調色の範囲を定め、大面積での色の乱れを防ぎます。またあまりに派手な色の大面積な濫用も禁じます。
一方低層階などでは、さまざまな色が使えます。建物の用途やデザインにふさわしい色を工夫し、那覇らしい賑わい、活気をつくるのもよいでしょう。

スタンダードカラー

●全体の配色イメージ

明彩度差、対比的な色相などを使った変化のある配色も可として、多様なイメージづくりを可能にします。ただし必ずしも色を多く使う必要はなく、主役となる商品や人をひきたてるにはあえて抑制することも効果的です。

●基調色

上層階は基調色とその類似色でまとめることを原則とします。（上層階とは、だいたい3階以上を指しますが、建物や前面道路のスケールに応じて考えます。）
基調色は、つぎの範囲から選びます。色の例は13頁を参照してください。

中高層建造物（4階建て以上）	【基調色2】	7.5R～5Y／明度7.5以上／彩度2以下（YR系は彩度3以下）、N／明度7.5以上
低層建造物（3階建てまで）	【基調色2】	7.5R～5Y／明度7.5以上／彩度2以下（YR系は彩度3以下）、N／明度7.5以上
	【基調色5】	その他の色相／明度8以上／彩度1以下

●その他の色

補助色や強調色は、主にファサードなど低層部で用いるようにします。
補助色は、表現したいイメージに応じたものとしますが、建物としてある程度見慣れた色がよいでしょう。
強調色は自由です。魅力ある配色を工夫してください。その際は誘目性の高い色を多く使用するばかりでなく、他の色や照明と組み合わせたときの効果などをうまく使いましょう。

配色例

YR系の淡い色に類似色相の暗い色を合わせた、親しみやすく堅実なイメージの配色

ごく淡い色を基調に、色相もトーンも対比的な色を添えた粋感のある配色

R系の淡い色に同系の濃いトーンを取り合わせた、クラシック感のある配色

白をベースに鮮やかな強調色を取り合わせた、活動的なイメージの配色

暗い色を格子部に使うことで重たい印象を軽減している

建物の低層階ファサードで強調色を展開する

下部はかなり強めの色だが、素材色なので違和感はない

派手な色も面積や位置に注意して活用できる

景観形成地域等

景観形成地域
（首里金城町）
（壺屋、龍潭通り）

いずれも歴史的な地区であり、赤瓦や石垣が多く残っていることや緑が多いことに特色があります。
歴史あるまちの雰囲気に合う、落ち着きある色彩環境が求められます。
緑や赤瓦がひきたつ暖かみのある基調色で統一感をつくります。

スタンダードカラー

●全体の配色イメージ

落ち着きや歴史を感じさせる配色の基本は、植物の緑や赤瓦、木材、石といった自然素材の色を生かし、人工色は存在を控えめにするということです。従ってまず建築物外装も自然素材（コンクリート打放を含む）を優先し、その素材色を大切にします。人工色はナチュラル感を大切にした配色を心がけましょう。また仕上げも反射率が高いものは人工的な印象が強いので、つや消しなどがよいでしょう。

●基調色

基調色は、つぎの範囲から選びます。色の例は13頁を参照してください。

【基調色３】	7.5R～5Y／明度７以上／彩度２以下（YR系は彩度３以下）、N／明度７以上

●補助色

補助色は基調色に似た落ち着きある色、すなわち同色相で低めの彩度の色を選びましょう。落ち着いた環境を損なわないためには、樹木の色（彩度６程度）を越えないことが目安です。

●強調色

この地区では建物を色で目立たせるのはふさわしくありません。誘目色は控えめにし、明度差を活用しましょう。

特に首里金城町では、赤瓦色（彩度８程度）を超えて鮮やかな色は使わないようにします。

●屋根色

景観形成基準では、赤瓦の使用が定められています。さらに、赤瓦以外の部分においても、彩度６以上の色および黒は使用しないものとします。

配色例

沖縄の伝統的素材色による、なじみ深い配色

白とYR系の淡い色による柔らかな配色。全体にやや灰味がかり、和風感がある

YR系で色相をまとめ、トーンでコントラストをつけた親しみやすい配色

伝統的な配色から全体にやや明度・彩度を上げ、活動感を加味した配色

年月が色彩に落ち着きを加えている

色数を絞り、演出を工夫したファサード

焼物、木、石などの素材色を活用

緑の多い環境ではシンプルな配色が合う

景観形成地域等

新都心地区
（住居系）（商業系）

新しい都市の形成に向けて、明るい新鮮なイメージをつくります。
新都心地区では、建物の色が暗めまたは強めのものが目立ち、全体としてややちぐはぐな感を抱かせる景観となっています。そこで基調色の範囲を暖かみのある淡い色に絞り、基盤的な統一感をつくります。

スタンダードカラー

●全体の配色イメージ

明るいモダンな都市イメージをつくるために、軽快感のある明るい淡い色でまとまりをつくります。

住居系地域は親しみやすいおだやかな配色を基本とし、商業系地域は対比的な要素を加えるなど表現豊かな配色も活用するものとします。

●基調色

基調色は、つぎの範囲から選びます。色の例は 13 頁を参照してください。

住居系	中高層建造物（4 階建以上）	【基調色 2】	7.5R ～ 5Y ／明度 7.5 以上／彩度 2 以下（YR 系は彩度 3 以下）、N ／明度 7.5 以上
	低層建造物（3 階建まで）	【基調色 2】	7.5R ～ 5Y ／明度 7.5 以上／彩度 2 以下（YR 系は彩度 3 以下）、N ／明度 7.5 以上
		【基調色 4】	その他の色相／明度 9 以上／彩度 1 以下
商業系	中高層建造物（4 階建以上）	【基調色 1】	7.5R ～ 5Y ／明度 8 以上／彩度 2 以下（YR 系は彩度 3 以下）、N ／明度 8 以上
	低層建造物（3 階建まで）	【基調色 2】	7.5R ～ 5Y ／明度 7.5 以上／彩度 2 以下（YR 系は彩度 3 以下）、N ／明度 7.5 以上
		【基調色 5】	その他の色相／明度 8 以上／彩度 1 以下

●その他の色

補助色は、主に低層部ファサードで使います。住居系では、生活環境にふさわしい落ち着きをつくるおだやかな配色をおすすめします。商業系では、色のコントラストが映える光環境を生かし、メリハリをつける組み合わせもよいでしょう。色数は抑え、美しい配色となるよう面積や配置に注意します。

強調色は、原色を使うばかりでなく明度差を活用しましょう。住居系はもとより商業系にあっても、原色の色数はできるだけ整理し、使用の際は低彩度色や高明度色と組み合わせることに心がけます。

配色例

YR 系の色相でまとめ、トーンでおだやかに変化をつけた落ち着きある配色

白を基調に淡い黄を取り合わせたカジュアル感のある配色

白を基調に淡い青を取り合わせた、クール･モダンな配色

YR 系の淡い色を基調に、異国調のアクセントカラーで賑わいや楽しさを演出する配色

住居系の環境に適した親しみやすい配色

補助色は基調色との色差･面積のバランスに注意して使う

商業系エリアでの都会的な配色イメージの例

強い色は奥に配することで周囲への影響を小さくできる

景観形成地域等

港湾地区／空港線沿線

物流系港湾の景観に色でメリハリをつくり、活発な賑わい感を出します。
レクリエーション系の港湾、および空港線沿線は、国内唯一の亜熱帯の海を楽しく演出する色づかいを図ります。

スタンダードカラー

●全体の配色イメージ

南国の青い海に映える白を基調イメージに、配色のコントラストや明るい色によって明るく活動的な雰囲気をつくります。レクリエーション系エリアでは動的・リゾートといったイメージ、物流系は機能的・スピーディといったイメージで配色を考えます。

●基調色

基調色はつぎの範囲から選びます。色の例は13頁を参照してください。レクリエーション系のエリアでは親しみやすい暖色系とし、物流系ではこれに加えてクールな色も使えるようにしています。

レクリエーション系	【基調色 1】	7.5R ～ 5Y ／明度 8 以上／彩度 2 以下（YR 系は彩度 3 以下）、N ／明度 8 以上
物流系	【基調色 1】	7.5R ～ 5Y ／明度 8 以上／彩度 2 以下（YR 系は彩度 3 以下）、N ／明度 8 以上
	【基調色 5】	その他の色相／明度 8 以上／彩度 1 以下

●補助色

大規模な施設は単調になりやすいので、補助色によって適宜分節化を図り変化をつくります。基本的に、上部階で用いる場合は「淡い」「穏やか」な色とし、重たい色は低層部に配します。

●強調色

「動くもの」「小さなもの」（コンテナやクレーン、機械類、扉など）は、基調色と対比的な強めの色彩を用い、港の活動感を出します。景観のスケールが大きいので、ぼんやりした色よりも「濃い」「明るい」「派手」な色調でアクセントをつくりますが、色数はできるだけ抑えます。

レクリエーション系ではそこに、清色系の色味のはっきりしたトーンを活用したトロピカルイメージを加えることもよいでしょう。

配色例

白を基調に明るいグリーンでアクセントをつけたさわやかなイメージの配色

白を基調に灰味のピンクで調子をつけた、やや甘いイメージの配色

明るいトーンを合わせた、ポップ・スポーティなイメージの配色

港の環境に合う単純ではっきりした色づかい

個性的で難しい色だが、量と形でバランスがとれている

レクリエーション系では部分的に導入してもよい配色

(上)大阪港水族館。シンボリックな施設ならではの配色
(下)トロピカル感豊かな配色イメージ
（※こうした色づかいを用いる場合は、十分な検討が必要）

各エリア共通カラースタンダード

基調色

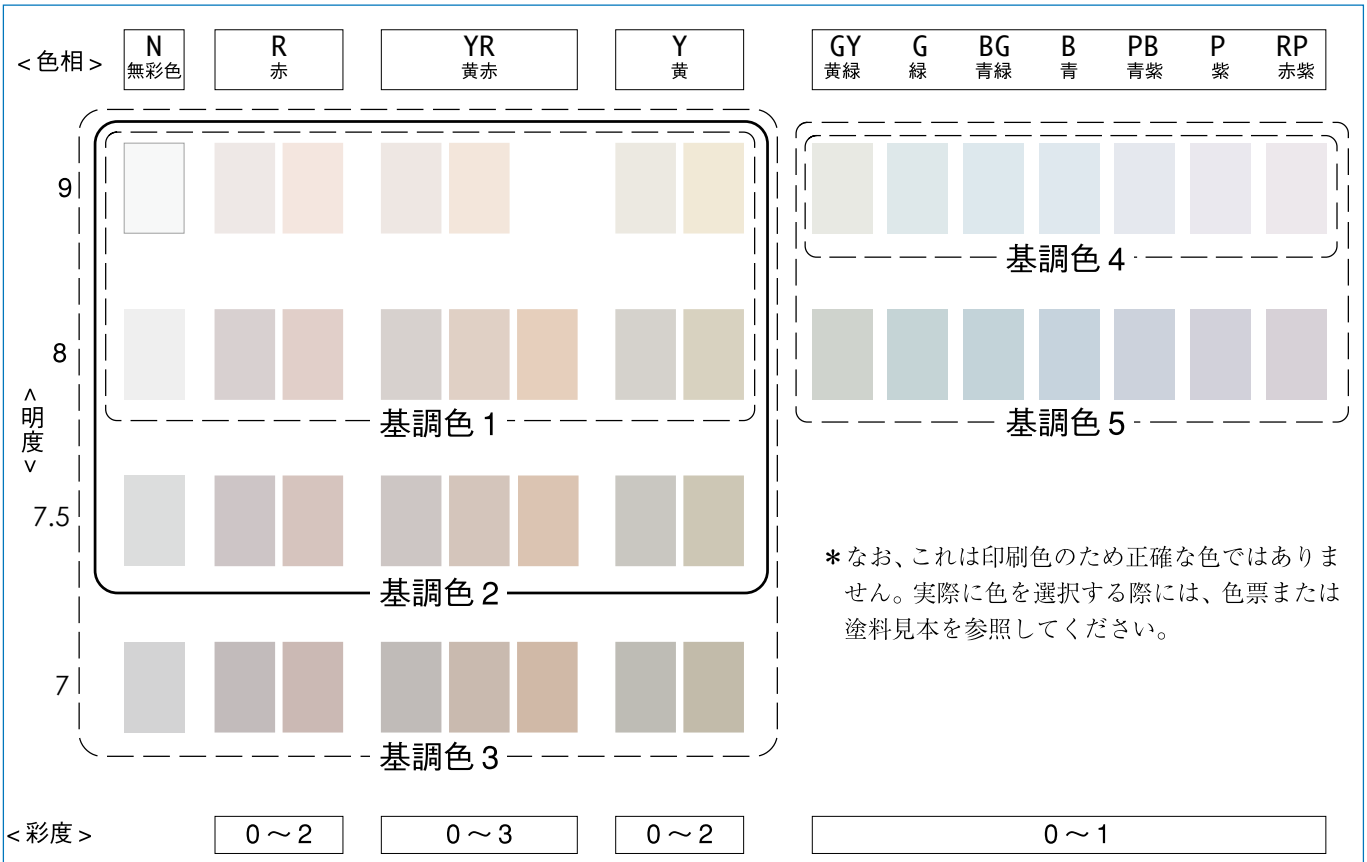
基調色のもとになっているのは、まち全体のテーマである「コーラルホワイト」、つまり琉球石灰岩などの素材色のイメージです。

ただ、個々の建物外壁の基調色はある程度幅があってよいので、エリア別スタンダードで【基調色1】などと示したとおり、それぞれ範囲を設定しています。

下の表は、【基調色1～5】の範囲にある色の例です。これらの色は代表的な例であって、だいたいこのような調子の色を含む範囲と理解してください。

基調色の中心になるコーラルホワイトのイメージ色

▼基調色の範囲（マンセル記号表示）



＊なお、これは印刷色のため正確な色ではありません。実際に色を選択する際には、色票または塗料見本を参照してください。

- 基調色 1：7.5R ～ 5Y ／明度 8 以上／彩度 2 以下（但し YR 系は彩度 3 以下）、N ／明度 8 以上
- 基調色 2：7.5R ～ 5Y ／明度 7.5 以上／彩度 2 以下（但し YR 系は彩度 3 以下）、N ／明度 7.5 以上
- 基調色 3：7.5R ～ 5Y ／明度 7 以上／彩度 2 以下（但し YR 系は彩度 3 以下）、N ／明度 7 以上
- 基調色 4：その他の色相／明度 9 以上／彩度 1 以下
- 基調色 5：その他の色相／明度 8 以上／彩度 1 以下

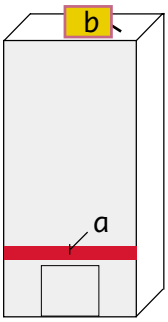
＊これらの淡い色や白色は反射光で街路空間をまぶしくしすぎる恐れがあるため、純白には少し色味をつけること、表面仕上げはテクスチャーを粗くする（つや消し、ざらざら）ことをおすすめします。

誘目色

「派手」な色は誘目色です。これらの色は適切に使えばよいのですが、使いすぎると街全体に及ぼす悪影響が大きいので、乱用を控えることが必要です。

そこで、誘目色については地域に応じて使用面積の限度を設けます。広告看板類の色彩も、誘目色を使用する場合はこの制限面積を超えないよう努めてください。

- ここでは、彩度 10 以上の色を誘目色とし、面積制限の対象とします。
- 誘目色の合計面積は、建物外壁の 1 面ごとの立面積に対し、5%ないし 10%以内とします。
- 5%以内とするエリア：一般住居系エリア、景観形成地域、新都心住居系エリア
- 10%以内とするエリア：一般商業系エリア、新都心商業系エリア、港湾 / 空港線沿線エリア
- ただし、景観形成地域においては、彩度 8 以上の色を誘目色とします。



$$\frac{\text{誘目色面積 a+b}}{\text{建物立面積 □}} \leqq 5\%\text{または}10\%$$

誘目色の例

屋根色

那覇の色彩を特徴づけている本赤瓦の色を殺さないため、赤瓦と同程度以上にめだつ色は使わないようにします。

- 素焼赤瓦以外の屋根素材（防水塗料等を含む）の色は、目安として彩度 6 以下とします。
- ただし、景観形成地域においては、これに加えて黒のカラー瓦も使用しないものとします。

使わない色の例

色味の強いカラー瓦

派手な防水塗料

彩度の高い色のペンキ塗装

補助色

補助色は普通、腰壁、玄関まわりなどに使います。このように面的に使う場合は、低層部において用いるようにし、街並みのまとまりを乱さないような色としましょう。

その他、設備（樋、管など）、梁、手すりなど小部分で色を変え、全体を引き締めたり調子を整える役割として使うのも補助色です。引き締め効果をあげるために、やや濃い色、濁色もあってよいのですが、沖縄の明るい環境では、黒や黒に近い色は少量でもアクセントとして効きすぎることがあるので注意します。

沖縄の光環境・色環境

●自然光　太陽光の性質の違いにより、北国では青みの色が映え、南国では黄み～赤みの色が映えます。

●強光　コントラストが強調されるので、はっきりした色が映えます。暗い色はより暗く、淡い色はより淡く見えますまぶしいので、反射の少ないざらついた風合いの素材（素焼瓦、漆喰、コンクリート打放など）が好まれます。

●植物　年間をとおして濃い緑と花がまちを彩ります。緑の色は総じて本土より明るく、黄みがかっています。

●天地　石灰岩からなる土石は明るい白っぽい色をしています。海、空の色がとてもあざやかです。

海・空の青さ

色鮮やかな花々

赤みの色が映える沖縄

↔

青みの色が映える高緯度地域

コントラストの強い色づかい（沖縄）

↔

中間色の色づかい（愛媛県）

黄みの強い沖縄の緑

↔

青みの強い高緯度地域の緑

‘コーラルホワイト’

平成 15 年 3 月

編集発行：那覇市都市計画部都市計画課都市デザイン室

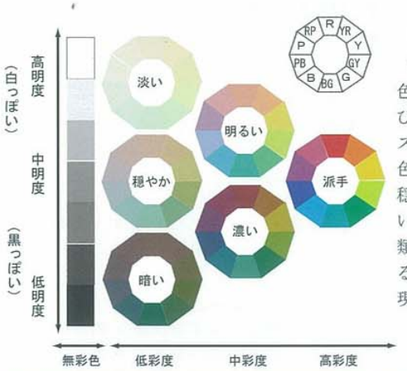
〒900-8585　沖縄県那覇市泉崎 1 丁目 1 番 1 号　　TEL(098)867-0111

編集協力：株式会社なむ環境創造

〒900-0016　沖縄県那覇市前島 1 丁目 14 番 8 号　　TEL(098)861-7519

※表紙紅型：瑞慶山和子「がじゅまる」（部分）

エリア別タウンカラースタンダード早見表



トーン（色調）

明度と彩度を合わせた色彩をトーン（色調）と呼び、那覇市タウンカラースタンダードにおいては、色調を、淡い・明るい・穏やか・濃い・派手・暗いの６つのグループに分類し、補助色等で使用する場合の考え方として表現しています。

臨港／空港沿線地区

基調色

レクリエーション系
【基調色１】
物流系
【基調色１】＋【基調色５】

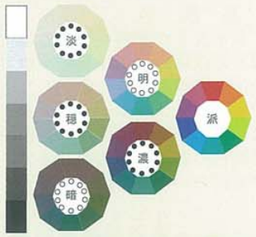
強調色

彩度10以上の誘目色は各壁面面積の10%以内とする。

屋根色

彩度６未満とする。
（赤瓦素材色は除く）

補助色の考え方



<●面として使える色>
<○フレームで使える色>

一般住宅系地域

第一種低層住居専用地域、第二種低層住居専用地域、第一種中高層住居専用地域、第二種中高層住居専用地域及び風致地区

基調色

中高層建造物（４階建以上）
【基調色２】
低層建造物（４階建未満）
【基調色２】＋【基調色５】

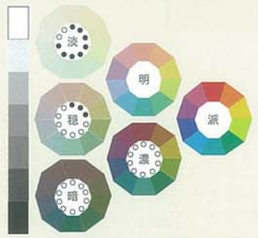
強調色

彩度10以上の誘目色は各壁面面積の５%以内とする。

屋根色

彩度６未満とする。
（赤瓦素材色は除く）

補助色の考え方



<●面として使える色>
<○フレームで使える色>

一般商業系地域

第一種住居地域、第二種住居地域、準住居地域、近隣商業地域、商業地域、準工業地域、工業地域（用途地域外もこれに準ずる）

基調色

中高層建造物（４階建以上）
【基調色２】
低層建造物（４階建未満）
【基調色２】＋【基調色５】

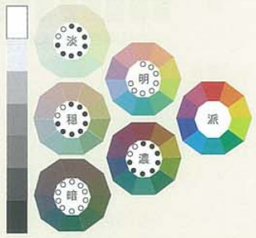
強調色

彩度10以上の誘目色は各壁面面積の10%以内とする。

屋根色

彩度６未満とする。
（赤瓦素材色は除く）

補助色の考え方



<●面として使える色>
<○フレームで使える色>

首里金城町景観形成地域

基調色

【基調色３】

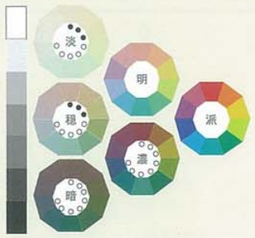
強調色

彩度８以下とする。
石畳道から直接見えない位置に配置する。

屋根色

赤瓦素材色を用いる。
赤瓦以外の部分は、彩度６未満とし、黒の使用は控える。

補助色の考え方



<●面として使える色>
<○フレームで使える色>

壺屋・龍潭通景観形成地域

基調色

【基調色３】

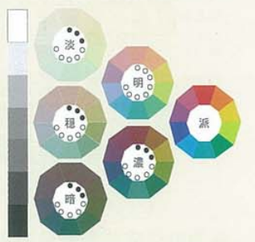
強調色

彩度８以下とする

屋根色

赤瓦以外の部分は、彩度６未満とし、黒の使用は控える。

補助色の考え方



<●面として使える色>
<○フレームで使える色>

新都心地区（住居系）

第一種低層住居専用地域、第二種低層住居専用地域、第一種中高層住居専用地域、第二種中高層住居専用地域

基調色

中高層建造物（４階建以上）
【基調色２】
低層建造物（４階建未満）
【基調色２】＋【基調色４】

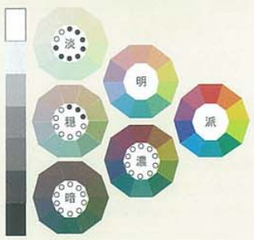
強調色

彩度10以上の誘目色は各壁面面積の５%以内とする。

屋根色

彩度６未満とする。
（赤瓦素材色は除く）

補助色の考え方



<●面として使える色>
<○フレームで使える色>

新都心地区（商業系）

第一種住居地域、第二種住居地域、準住居地域、近隣商業地域、商業地域

基調色

中高層建造物（４階建以上）
【基調色１】
低層建造物（４階建未満）
【基調色２】＋【基調色５】

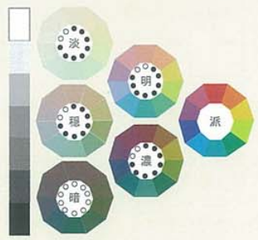
強調色

彩度10以上の誘目色は各壁面面積の10%以内とする。

屋根色

彩度６未満とする。
（赤瓦素材色は除く）

補助色の考え方



<●面として使える色>
<○フレームで使える色>

※このパンフレットは再生紙を使用しています。

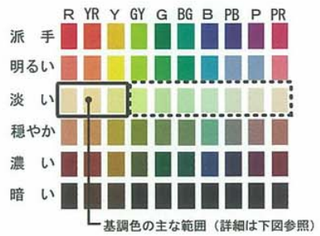
亜熱帯庭園都市の彩りをきわだたせる コーラルホワイトのまちづくり

那覇市タウンカラースタンダード

「亜熱帯庭園都市の彩りをきわだたせるコーラルホワイトのまちづくり」をテーマに、亜熱帯島嶼地域の自然環境、特色豊かな文化風土を活かした色使いによって、美しく個性ある那覇の景観形成をめざします。

基調色

最も大きな面積を占める部位の色です。個々の建物の地色であるだけでなく、まち全体の印象をつくる色としても大切な存在です。タウンカラースタンダードにおいては、「コーラルホワイト」をイメージした基調色の範囲を定めています。基調色は各壁面において過半以上に用いてください。



強調色・誘目色

背景の色と大きな差があり、目につきやすい色は強調色です。アクセントとして小部分に効果的に用いるもので、面積の目安としては各壁面の１０%程度までを目途とします。

ここでは、強調色の中でも、原色など特に派手な色を誘目色と呼びます。誘目色の使いすぎは、まち全体の景観に及ぼす影響が大きいので、使用にあたって小面積の範囲にとどめます。

◆部位に応じた配色の考え方

中高層部（３階以上の階）

都市の大景観を構成する要素。基調色によって統一感をつくる部位であるため、不必要な色の多用は避ける。

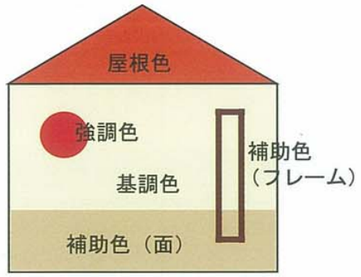
低層部（１～２階部分）

ストリートスケープ（歩く目線のまちなみ景観）を構成する主要素。色、形などによる変化は主に低層部で展開されるため、補助色や強調色を活用する部位。

※低層建築物においても、基調色をメインに用い、これに調和した補助色を配する考え方は共通です。

屋根色

那覇は、赤瓦の屋根の色が「まち」の大切なアイデンティティとなっています。勾配屋根などで赤瓦以外を用いる場合は、赤瓦色より彩度を落とした色とします。



素材色等

・木、土、石、素焼きの焼物などの自然素材は、素材そのものの色をできるだけ生かします。
・コンクリート、金属、ガラスなど着色しない素材は、素材色をそのまま活用します。
・反射率の著しく高いガラス（鏡面反射等）の使用にあたっては、周囲に光害をおよぼす恐れや、映込みによる景観の煩雑さを増す場合がありますので景観への配慮を充分に行ったうえで使うようにします。

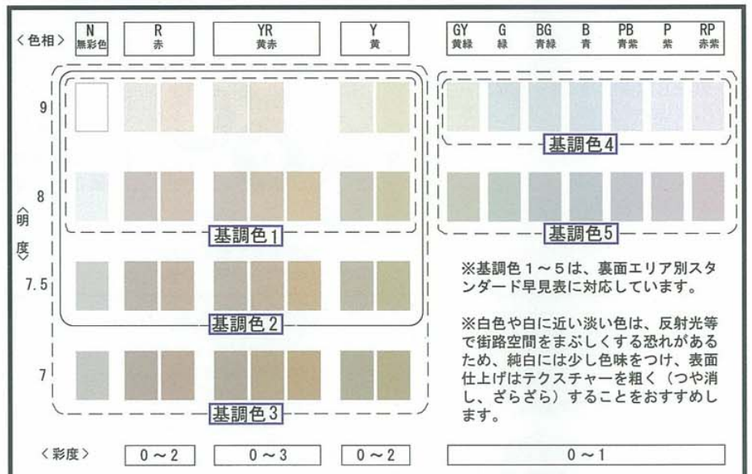
補助色（面）

基調色だけでは単調になる場合に変化をつける色です。一般に腰壁、玄関まわりなどで使い、基調色とともに主調のイメージをつくるので、基調色と類似性の高い色、落ち着きある色が主となります。面積の目安としては３割程度までがバランスがとりやすいでしょう。

補助色（フレーム）

フレーム部分（手すり・庇・雨どい等）で使用し、全体の調子を整えるための変化をつける色です。　面で使う補助色に比べ面積が小さくなる分、濃いめの色でもバランスをとりやすいのですが、黒や黒に近い色は効きすぎて強いアクセントとなってしまうこともあるので注意します。

基調色



※基調色１～５は、裏面エリア別スタンダード早見表に対応しています。

※白色や白に近い淡い色は、反射光等で街路空間をまぶしくする恐れがあるため、純白には少し色味をつけ、表面仕上げはテクスチャーを粗く（つや消し、ざらざら）することをおすすめします。

・基調色１：7.5R～5Y ・明度８以上／彩度２以下（但しYR 系は彩度３以下）、N ／明度８以上
・基調色２：7.5R～5Y ・明度7.5以上／彩度２以下（但しYR 系は彩度３以下）、N ／明度7.5以上
・基調色３：7.5R～5Y ・明度７以上／彩度２以下（但しYR 系は彩度３以下）、N ／明度７以上
・基調色４：GY～RP系の色相・明度9以上／彩度1以下
・基調色５：GY～RP系の色相・明度8以上／彩度1以下

※なお、ここで表現された色彩は印刷色のため正確な色ではありません、実際に色を選択する際には、色票または塗料見本を参照してください。

問合せ先：那覇市役所都市計画課都市デザイン室　ＴＥＬ９５１－３２４６